

令和 6 年度
第 1 回海老名市総合教育会議

令和6年度第1回総合教育会議議事録

- 1 日付 令和6年4月21日（日）
- 2 場所 えびなこどもセンター 2階 201会議室
- 3 出席者
市長 内野 優 教育長 伊藤 文康
教育委員 平井 照江 教育委員 濱田 望
教育委員 海野 望
- 4 事務局
教育部長 江下 裕隆 教育部次長 吉川 浩
教育部教育支援担当部長兼教育支援担当次長事務取扱兼教育支援課長事務取扱 麻生 仁 教育部参事（給食・公会計担当） 山崎 淳
教育部参事兼教育支援課教育支援担当課長兼教育支援センター所長兼指導主事兼支援係長事務取扱 小薗 洋 教育部参事兼就学支援課長兼指導主事 西海 幸弘
学び支援課長 松本 晃子
教育支援課副本幹兼指導主事 佐藤 英恵
- 5 書記
教育総務課総務係長 小林 亮介 教育総務課主査 片山 考人
教育総務課主査 伊藤 景子 教育総務課主任 北 雄一
主事
- 6 傍聴人 24名
- 7 開会時刻 午後1時00分
- 8 協議事項
(1) フルインクルーシブ教育について
(2) 海老名市立学校における保護者負担経費のあり方検討委員会について
(3) 海老名市学校施設再整備計画の改定について
(4) 教育大綱の取組について —「幼保小の架け橋プログラム」の導入—
(5) 教育大綱の文言修正について
- 9 閉会時刻 午後2時40分

○教育部次長 皆様、こんにちは。ただいまより、「令和6年度第1回海老名市総合教育会議」を開会いたします。

本日司会を務めます、海老名市教育委員会教育部次長の吉川と申します。どうぞよろしくお願ひします。本日は、神奈川新聞の記者の方が取材に見えておりますので、ご承知おきいただければと思います。

それでは、会議の開催に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。ご用意いたしました資料につきましては、A4の紙で、本日の「会議次第」、2アップで、上下2段で印刷された「協議事項資料」、それから、A3のもので「教育大綱」の案、以上の3点でございます。過不足等はございませんでしょうか。なお、協議事項の資料につきましては、左手のスクリーンに投影いたしますので、そちらでもご覧いただくことができますが、スクリーンの撮影は、ご遠慮いただきますようお願い申し上げます。また、本会議全体を通して、海老名市YouTubeチャンネルにてライブ配信しておりますので、何卒ご了承願います。

それでは、会議に移らせていただきます。まず、次第の2、市長及び教育長からご挨拶申し上げます。はじめに、内野市長、よろしくお願ひいたします。

○内野市長 皆さん、こんにちは。令和6年度の第1回目の総合教育会議でございます。この会議も平成27年度からスタートして、10年目を迎えてます。近隣の首長に聞きますと、この会議はどこも年1回しかやっていないと言っていますけれども、私のほうでは、教育長が熱心なのか、分かりませんけれども、年4回やっております。多くの皆さんにこの会議の存在を知ってほしいということと、どういうことを決められているのかという形もご理解していただきたいという気持ちであります。いろいろな協議事項がありますけれども、司会は私なので、皆さんからご意見あれば、合間にでも賜りたいと思っています。

4月から中学校の給食がスタートしました。本当に気になっておりまして、みんな食べてくれるのかなという期待もありますし、不安もあります。いろいろな中学生に聞くのですけれども、給食、どうだと聞くと、みんなにおいしい、おいしいと言っていただいている。給食費の無償化というのは話題になっておりますけれども、私のほうでは、できるだけおいしい給食を出すための食材や環境整備をしていきたいと思っています。今、物価は高くなっていますけれども、これからもっと高くなると思います。今年の秋が最大に高くなる。円安によって当然そうなっていくんだろうと思っています。あるいは賃金の上昇によってそうなります。

そういう中で、では、保護者の皆さんに、今の給食費から、上がった分をまた上げることはなかなか難しい状況がございます。これは市の税金で公費負担にしていきたいと思っています。その中で公費負担をしながら、こどもたちにおいしい給食をという話をしていきたい。

この間、議会がありまして、私どもお米は地産地消で、海老名の米ができるだけ使おうとしています。ところが、1年間、海老名の米を使うことはできません。なぜかというと、それだけの量がないのです。米は保存しないといけませんから、冷蔵庫とか、そういう整備をしないといけない。そういう部分でいくと、ある程度出荷されてしましますので、それだけで地産地消ができるのは、1年間あるとすると、大体秋頃、11月頃から始まって、3月頃で海老名の米をやる。あとは学校給食会で指定された米をやっていますけれども、その中でできるだけおいしいお米をということで教育長が、私ども災害協定を結んでいます新潟県新発田市のお米を仕入れて、こちらのこどもたちにということでやりました。

議会では、高い米を買って、負担をかけるなという話がありました、その負担はうちで持っています。そういう部分でいくと、お米もいろいろなお米がありますから、いわゆる米どころの米を何回か食べてもらってもいいのではないかという気持ちで、教育長はそういう発想をしております。いわゆる安いから何とかではなくて、いいものをこどもたちに食べさせてあげたいというのが教育長の考え方ですから、それについては私ども、お金を預かっている市長としてもバックアップはしていきたいと思っています、できるだけ地産地消を図りながら、ある程度おいしい食材を提供していく、これが私どもの1つの目標ですので、ご理解いただきたいなと思います。

あとは、始まった後、皆さんから忌憚のないご意見を賜りたいと思います。よろしくお願ひします。

○教育部次長 ありがとうございました。続きまして、伊藤教育長、よろしくお願ひします。

○伊藤教育長 こんにちは。令和6年度の第1回ということで、これから1年間、総合教育会議で市長と教育委員と私が話をするという会議を公開するということなのですね。その意味は何かというと、実をいうと、こういう形になったのは教育委員会の制度が変わって、市長と私とでいろいろ話をしているけれども、私と市長は話をするのですよ。いろいろなことをお互いフランクに。でも、教育委員さん方も含めてそういう中で、要するに海

老名の教育というか、教育施策、教育行政が決まっていくので、それが密室とは言わないけれども、皆さん知らないところで決まるのはいかがなものかなというのであるので、あえて話し合いの場を公開して、皆さんに聞いていただいて、意見とか感想を持っていただくということでございます。いろいろな教育施策を進めるのですけれども、結果としては、こどもたちとか、保護者とか、教職員とか、多くの市民の方々に聞いていただいて、それに対して意見を聞いて、物事を決めていくというのが教育という……。できるだけ民主的な手法とすべき行政の中では、それが必要かなと思って、このような形で進めさせていただいている。多分市長がどんどん皆さんに聞くと思いますので、忌憚なくご意見をいただければなと思いますので、よろしくお願いします。

今回は、昨年度示した教育大綱の進捗状況、今、取り組んでいる全ては教育大綱に載っているものですので、その進捗について担当から説明がありますので、それに対していろいろご意見をいただければありがたいかなと思っています。よろしくお願ひいたします。

○教育部次長 伊藤教育長、ありがとうございました。

続きまして、次第3の協議事項に入りたいと思います。その前に先ほどお伝え漏れをしてしまったので、ご案内いたします。資料ですけれども、協議資料につきましては、後ほど回収をさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

本日の協議事項は5件でございます。協議事項の進行につきましては、本会議設置者であります内野市長に議長をお願いしたいと思います。

内野市長、よろしくお願ひいたします。

○内野市長 それでは、協議事項の（1）フルインクルーシブ教育についてを議題といたします。

後で教育長からいろいろ説明あると思いますけれども、事務局から説明をお願いします。

○教育支援センター所長 皆様、こんにちは。海老名市教育委員会教育支援課支援係の小薗と申します。本日は海老名市のフルインクルーシブ教育について、誰ひとり取り残さない教育の実現に向けてということでご説明いたします。フルインクルーシブ教育でどんなものが始まるのだろうか、どんなものなのだろうというふうにいろいろと思われている方々も多いのではないかと思っております。今日の説明で少しでも、どういった意味があるのか、どういったものなのかということをご理解いただけたらと思いますので、よろし

くお願いいいたします。それでは、着座にて失礼いたします。

まず、インクルーシブ教育という言葉なのですけれども、教育関係者であれば聞いたことがある言葉かなと思います。今回「フルインクルーシブ教育」という言葉に変わっていますが、その意味についてお話しします。

フルインクルーシブ教育のインクルーシブ教育とは、神奈川県では「支援教育の理念のもと、共生社会の実現に向け、すべての子どもが、同じ場でともに学びともに育つことをめざす」としています。共生社会とは、1人1人違う人々が共に生きていくこと、支え合って生きていく社会です。その実現において大切なことですが、まずは、子どもはもちろん、大人も1人1人みんな違うという視点を持つこと。そして、共に学び、共に育つ、つまり様々な違いを違いとして認め合い、支え合っていくことを学ぶこと、共生社会を目指す上で、義務教育段階では、障がいを持つ子や外国籍の子で日本語指導が必要な子など、全ての子どもが同じ場で、共に学び、共に育つことはとても意味のあることだと考えます。

今回、フルインクルーシブ教育という「フル」という言葉がつきました。この言葉のインパクトはすごいと思います。第1に「フル」とは「限度いっぱい」「十分である」「全部」などの意味があります。そういう意味を持つ言葉ですから、いきなり全ての子どもたちが一緒に同じ場で学ぶようにする、現存の特別支援学校や特別支援学級をいきなりなくすという、形だけにとらわれたものではありません。インクルーシブ教育をさらに進めていくという強い決意、強調の意味で「フルインクルーシブ教育」と呼ぶことにしました。全ての子どもの教育的ニーズに基づいた環境設定や支援とは何かということを考え、実践していくことが必要だと考えます。

海老名市では、先ほどお話がありましたが、教育大綱を定め「誰ひとり取り残さない教育の実現を目指す」ことを掲げています。その1つの柱として「包括性の高い教育的、社会的支援の推進」を挙げており、フルインクルーシブ教育の推進においては、海老名市では、個別の教育支援計画、えびなっこ支援シートの作成等を通じた教育的ニーズの適切な把握の下に、全ての子どもたち1人1人の多様性に対応した学びやすい環境、分かりやすい授業、安全で安心できる居場所を目指して取り組んでいきます。

神奈川県では、全国に先駆け、インクルーシブ教育に取り組んできた経緯があります。その目指すべき将来像は「すべての子どもが、小学校、中学校、高校で学べる環境の実現」としています。その中で、共に生きる社会、つまり、共生社会を自分事とする上で、

幼少期からの体験は重要であり、子どものときから当たり前に、共に学び、共に育つ経験によって、互いを理解し、助け合う気持ちが生まれる学校教育の担う役割は大きいとしています。

そこで、神奈川県の理念と海老名市の理念が一致し、令和6年3月29日にインクルーシブ教育の更なる推進に向けた連携と協力に関する協定を締結し、フルインクルーシブ教育推進市町村に海老名市が指定されました。この取組は全国的にも珍しい取組です。

協定の中身を説明いたします。まず、協定の趣旨及び目的ですが、神奈川県教育委員会と海老名市教育委員会が「緊密な相互連携と、協働による活動を推進し、全ての子どもたちが地域の小・中学校に通い、同じ場で共に学び共に育つことができる環境を実現する」とあります。そして、連携事項としましては、①フルインクルーシブ教育の実現に向けた研究・企画・実践、②フルインクルーシブ教育の普及・啓発、③その他、フルインクルーシブ教育の推進となっています。

この協定に基づき、海老名市では令和6年度に、次に挙げる3点の取組を行います。①海老名市教育委員会と神奈川県教育委員会とで共同での会議体を立ち上げ、学校の支援体制整備に向けた研究を進めてまいります。②保護者・市民との対話の場を設け、これからフルインクルーシブ教育の実現について共に考えていきます。③教職員への研修会、説明会を開催してまいります。このフルインクルーシブ教育の実現に向けて、こちらの考えを押しつけるのではなく、保護者や教職員の皆様と共に考えながら進めていく必要があると考えています。

以上の取組から始めまして、共に学び、共に育つ、誰ひとり取り残さない教育の実現を目指してまいります。

以上で説明を終わります、ご清聴いただき、ありがとうございました。

○内野市長 今説明がありました。教育委員の皆さんから、何かご質問、あるいはご意見がありましたらよろしくお願ひしたいと思います。

○濱田委員 説明ありがとうございました。非常に難しい問題なのかなとも思いますけれども、私が聞いたところによると、国際的に日本の共に学ぶフルインクルーシブ教育というのは非常にレベルが低いと聞いたことがあるのですけれども、そこらの判断というか、あるいは国際的な動きというのがもし分かれば教えていただければと思います。

○教育支援センター所長 国際的な動きとしまして、まず2022年9月に国連から日本に向けて、インクルーシブ教育として日本の少し遅れている現状について勧告が行われまし

た。世界全部の国々の把握までは、すみません、私もまだ把握はできていないのですけれども、先進的なイタリア、フィンランドといった国々の取組は耳にしております。日本もやはりフルインクルーシブ教育、昔から支援教育の推進等を行ってきた経緯がございます。細かな支援をやってきたという経緯もあります。その中で、共生社会の実現に向けて、皆が同じ場で共に学び、共に育つという観点に関しましては、これから進めていかなくてはいけないと思っておりますので、その実践に向けて考えているところでござります。

○濱田委員 国際的な評価が非常に低いというところもそうですけれども、私も市長と教育長と同年代なのですが、子どもの頃の学校教育とはそんなに差がなく、誰一人取り残さないというのはもう自然に受けていたような記憶があるのですが、その後、教育現場、体制がいろいろ変わった上でこのような指摘を受けているのではないかと思いますので、新しい取組ではなくて、昔から当然のごとくあったような取組にしていく必要があるのではないかと思います。

これからも頑張っていきましょう。ありがとうございました。

○海野委員 ご説明ありがとうございました。今回、フルインクルーシブになるということで、保護者としては恐らくイメージが湧かないのだと思うのです。海外ではもう具体的にやっているところがあるかと思うのですが、学校生活の中ではどのようにやっているとか、もし形やイメージみたいなもの、こうやって行っているみたいなものがあれば教えていただけたらなと思うのですが、よろしくお願ひします。

○教育支援センター所長 イタリアの事例でまいりますと、特別支援教育支援員という教員を配置しまして、その支援員が教室において、担任教員の指導の下、そういう支援の必要な子たちを見ながら、見守りながら支援していくような取組がなされているとも聞いております。そういう制度的というか、そういう支援の在り方としても、よりよいところは学びながら、日本の教育、こちらに向かっていく教育に関して、いいところはいいところで考えていくというふうに取り込みながら検討していきたいと思っております。実際に、本当に様々、子どもたち1人1人違うのを前提に、そういったことを我々教職員、保護者も含めて、いろいろな子どもたちがいる中で1人1人の教育的ニーズに対応した教育とはどういったものがよろしいのかということをいろいろと議論しながら、話し合いながら、理解していきながら進めていきたいと思っております。

○海野委員 クラスの中にいろいろなタイプの子どもたちがいるということで、先生たち

の数が増えたりとか、クラスの人数とか、いろいろなところに影響が出てくると思うのです。ただ、今すぐできることではないので、丁寧に、できるだけ具体的に、こういうことがあるのだよ、みたいな例を挙げていただいたほうが皆さんも理解しやすいのではないかと思うので、ぜひよろしくお願ひいたします。

○平井委員 新たにインクルーシブという言葉が出てきたのですけれども、学校の中で、そういう言葉が出てくる前から、少なからず、いろいろな形でのことが行われてきているかなと思います。支援級のこどもたちが交流で通常級の中に入ってきてお勉強するし、支援学校のこどもたちが小学校に来てお勉強するしという形で、海老名の中では、それぞれの学校で、それぞれのこどもたちに合った学びが行われてきているので、改めてインクルーシブという言葉を聞くと、すごく大きなことに聞こえますけれども、小さな積み重ねは、海老名では各学校でいろいろな形で行われてきているのかなと感じています。

ただ、それだけにとどまらないという感じがいたします。もっともっと幅広く、限度がある中で支援員さんにお力添えいただいているのですが、やはりいろいろな形で限度があります。ですから、こどもたちがみんな一緒にという場面ではなかなかその機会を多く設けることができないので、やはりそこには人的な補助とか、いろいろなものが必要になってしまいます。これから県との話し合いをされるということなので、海老名市の実情を県に知らせていただいて、このような状況の中にあると。これから先、3年、5年と目指すものがあると思うのですが、そこを目指していくには何の力が必要なのか、何を求めていかなければいけないのか、県から力で何をもらわなければいけないのか、そのあたりを精査していくかないとなかなか先に進まないかなと思います。

もう1点は、先生たちが日常行っていることなのですが、フルインクルーシブという言葉が出てきたので、改めてここで先生たちに研修をさせるというのもすごく大きいと思います。意識が全然違いますし、新しい先生方がいっぱい入ってきていますので、そのあたりを教育がやっていくことが求められますので、そこは先生たちにしっかりと学んでいただかないと先には進まないと思いますので、そのあたりの計画はきちんとやっていただきたいなと思います。

○内野市長 意見でいいですか。

○平井委員 はい、意見で。

○内野市長 最後に教育長にお任せしますけれども、私も平井委員と全く同じなのです。支援員任せにならないで、教職員全体でこのことを理解して、一体として取り組んでい

く。そうすることによって私ども、財政を預かっている市長としても、今回は県と協定を結んでいる。では、全部、海老名市が環境整備でお金が出せるかというと、そうではない。それは県との話し合いを今後やらないといけないのですけれども、具体的なことになると、やっぱりお金がかかる問題、支援員の増員もそうです。そういうた部分が出てくるので、できるだけスケジュール感を持ちながら、どういったところにどれだけの予算が必要なのかというのを明確にしないと、予算組みができないので、その辺はお願いします。その前提になるのは、学校の先生方全員が理解し、納得し、みんなで取り組んでいくという姿勢が必要だと思っていますので、その辺も踏まえてよろしくお願いいたしたいと思います。

もう1つ、市でやっていること。ここにも影響してくるのですけれども、海老名市は、隣りにあるわかば会館の1階、2階を重度障がい者の居場所として使っています。入浴サービスとか、いろいろやっています。3階は、基本的には重度障がい者の保育園、わかば学園をやっています。ところが、1つ大きな問題があって、医療行為が必要なお子さんを預かるところが海老名市には1か所あるのですけれども、そこが劣悪な状況です。2階に上がっていくのにもエレベーターがない、入浴をやるにしても、はつきり言って、やっと入浴ができるような状況。そのお子さんは、自分でご飯も食べられない、目は開いているのですけれども、見えるか、分からない、しゃべれない、のどが詰まるので点滴をやらないといけない、ご飯も胃ろうでやっているようなお子さんが多くいらっしゃいます。その受皿を、私どもわかば会館の重度障がい者の居場所を社家に移して、この1階にそういった施設を持ってきたいと思っています。

2階はというと、自閉症と発達障がいの方が今すごくいらっしゃいます。その中で、専門的な人が診て、これは自閉症ですよといっても、はつきり言って、違うとか言って保護者が受け入れません。ところが、そのお子さんたちは、市内の保育園、幼稚園に行っているのです。そういうグレーな部分のお子さんについては、保育園、幼稚園についても補助金を出してあります。ところが、専門的な観点の指導ができない。今まで調べたら、保健相談センターの保健師に1か月に1回来てもらって、指導してもらっている。それだと、保護者も全く理解できない。2階にそういったお子さんを一定期間というか、保育園は月曜日から土曜日の6日間あります。幼稚園は5日間あります。その中で、園児あるいは幼児に応じた週2日とか、3日とか、それを2階のほうにつくって、やろうとしています。そこはうちの保育士とか事務職ではできませんので、きちんと専門的な人を雇い入れて、

そこで相談しながら、その園児、幼児に合った指導を行います。保護者にも理解してもらう。そして、そのお子さんたちが今度は小学校に行ったときにこういった体制になるのだろうという形で考えています。

これは、県の動きの前から始めようとしておりました。これがちょうど一致しますので、移転するときに、議会でも、団体の方でも、いろいろご意見はあるのですけれども、ここはご理解と納得を得て、社家のほうに移動していただいて、そういう形にしようという方向で動いていますので、教育委員さんもご理解をいただきたいなと思っています。

それでは、教育長、締めでお願いしたいと思います。

○伊藤教育長 フルインクルーシブ教育ということで、どこからどのように説明したらいいのかなと思っていますけれども、普通のことを普通にやりたいのだけれども、それはいかがなものかということを皆さんで……。こどもたちが生まれてきて、1人1人どのような状況であろうが、どのような条件だろうが、何だろうが、みんな同じ、とても大切な命で、その子たちが教育を受ける場所がそれぞれに合ったと言うのだけれども、違ったほうがいいのか、みんながそこにいて、みんなでいろいろ考えたほうがいいのかということを市民の方に問うて、話をして、もちろんこどもたちにも意見を聞いてもらって、あとは保護者の方。それから、例えば、障がいとか、不登校とか、外国にルーツのある方々、そんなこども、保護者みんなの話を聴いて、どれが一番望んでいられるのかなということをもう1回確認したいと思います。私は確実に、みんな一緒にいいと思っているのです。

ただ、それぞれの障がい者、そういう特性をお持ちの保護者の方は、いや、そうではないといろいろな意見があると思うのですよ。まず、それを聴きたいのです。だから、そういうことから始めて、それを教育委員会が上から下ろして、こうやってやりますと言っても絶対続かないのです。どこかで壊れてしまうのです。確実にそうなのです。海老名はみんなでフルインクルーシブ教育を目指したほうがいいのではないかというふうな形にならなければいけないので、6月に早速、市内の6中学校区へ私が行って、保護者、市民の方との話し合いの場を持ちます。そこで、私が考えていることを話します。

ただ、フルインクルーシブ教育を目指し出したということは、実をいうと、明日から支援級がなくなったり、特別支援学校がなくなるなんて、絶対あり得ないことなのです。それは、今の段階で、今の海老名の学校の在り方がこのままでいいのかという問い合わせです、私にとっては。ある程度能力があったこどもたちで教室をつくって、そこで授業をすることが本当の授業なのか。みんな、いろいろな人たちがいなかつたら、どこでその子…

…。だから、本当に悲しく思うのは、ゼロ歳から何歳かまで、みんなで一緒に生活していたのに、小学校、中学校の間に分離的な考えがこどもたちに自然と入ってしまったのではないかなと実は思っているのですよ。

私が担任の頃にこんなことがありました。小学校6年生の卒業の前に、保護者に対して記念の演奏会を開くことになりました。こどもたちは6年生ですから、すごく難しい曲を練習したのですよ。ところが、通級というか、支援級の子が1人入ってくるのです。その子はそこに入ると楽しくてしようがないから、いろいろなところで楽器をガシャン、ガシャンと鳴らすのです。ほかの子たちは、6年間の私たちの成長を親に見てもらいという気持ちで必死になって練習していたのですよ。それで、こどもたちがそこで話し合ったのです。先生、何とかちゃんさ、休めない？って。どういうことだよ、それはと。だって、俺たちが一生懸命練習しているときに、何とかちゃんが来たら、ガシャンと鳴らすよって。じゃ、いいよ、みんなで話し合ってごらんと。結果的に彼らが何をやったかというと、いいよ、何とかちゃん、最後はみんなでやろうと。それを聞いたときに、すごくほっとしたのです。もしそのときにそういう排除の考え方を普通にやれるようなこどもたちを育ててできていたら、学校教育、学校の意味はどこにあったのかなと。発表会当日、期待どおり鳴らしてくれました。みんなで一生懸命やっている横で、シンバルをガシャンとやったのですよ。でも、こどもたちは、そのことに誰も文句を言わなかつた。だから、それぞれのこどもたちがどのような形でそこに存在することに意義があるのか。

これも私の経験なのですけれども、若い頃、体育主任をやっていたとき、その頃は運動会とかなんかはすごい厳しかったので、退場は駆け足だと。だから、みんな足をそろえて、駆け足で行くのですよ。そのときに私が言われたのは、伊藤さん、走れない子がいたらどうするのだよ、それでもおまえは無理やり駆け足をさせるのかよと。学校って、何かの中でちょっとずつ間違えているのですよ。実をいうと。そのことに気がついて、みんなでそれをどうしようか、話し合うことのほうがとても大事で。今の社会自体、本当は、海老名市自体がフルインクルーシブなシティというか、まちにならなければいけないのですよ。

そういうことを目指す中で、では、今、例えば人がつかなければいけないとか、いろいろなことがあるので、私が神奈川県と協定を結んだのは人、物、金のためなのです。やっぱりその辺は神奈川県に出してもらいたいと思うのです。でも、だからといって、その条件が整うのを待っていたら、学校はずつとこの考え方、ちょっと異常な世界、組織として

ずっと続くのですよ。本当に普通のことなのですよ。そこに住んでいる人たち、こどもたちがみんな同じように。でも、そのこどもたち、いろいろな条件の中でどれがいいか、こどもたち自身も話し合う。それは社会に出ても同じなのですよ。今はそうではないから、知らないうちに偏見とまでは言わないけれども、違った目で、違った判断をするような学校教育が実際に進められているので、最低限、海老名の今の状況。少しでもこどもたち1人1人を包摂的に見られるような学校にするための、フルインクルーシブは1つの指針というか、考え方なのですよ。それをどう進めるかについて、みんなで、では、どの形がいいかを話し合う場にしたいなと思っています。

でも、私がこう話すと、ほかの方々から、でも、うちの子はこうだよと言う方々もいるだろうから、それはきちんと話を聞いて、では、こうですかということです。だから、海老名市としてはフルインクルーシブ教育を進めるのだけれども、私としては、海老名として、みんなでつくり上げたフルインクルーシブ教育にすべきだと思うのです。それに多分1年、2年ぐらいかかるかなと思っています。でも、施策の中では途中でも、海老名市教育委員会としては、例えばスペシャルサポートルームとか、実をいうと今でも……。私、この前、看護介助員に辞令交付したのですけれども、海老名では90人ぐらいに辞令を渡しているのです。ということは、海老名市内には、それだけの介護員、看護介助員がいる。でも、ほかの市に行ったら、そんなことは絶対あり得ないのですよ。ほかにも補助指導員が必要とされている。だから、こどもたちを支援する人たちが100人以上、学校の先生以外で現状海老名は入っているのですよ。その方々をもっと機能的に動かしたら、ある程度こどもたちの支援はいけるかなと私自身目論んではいるのです。それはそれでやっているのですけれども、ただ、こどもたちみんなが1人1人同じ命で、そこで生まれて、そこで育ったこどもが地元の学校で一緒に過ごして、そこで教育を受けていくというのが当たり前のことですよ。その当たり前がどうできるか。でも、それは我々だけでつくるのではなくて、保護者も、地域の方も、結果としては、実をいうと、今、日本国内で個別にやっているところがあるのですよ。

例えば海老名とか、行政団体でやるところ。でも、個別にやっていて、うまくいっているところは、実はみんながその学校のために力を貸しているのですよ。ボランティアの方も、保護者の方も、やれる人みんながその学校に入って、その学校を支えているのですよ。それが学校の普通の形、当たり前ですよということで。でも、そういう協力も、みんなで話し合ってつくって、何々小学校はフルインクルーシブ教育の学校、みんなが集まれ

る学校だよという基礎がないとできないので、そういう部分の話合いをまず始めたいなと私は思っていますので、ぜひこれからどんどん皆さんと意見交換しながら、より海老名のフルインクルーシブ教育を進めたいと私は思っているということでございます。

長くなつて申し訳ありません。早くやめるとおっしゃっていたのですが、これは言い出すと、私自身、止まらないので。ごめんなさい。

○内野市長 これは意外と大事なことなのですね。皆さんから、ここはどういうことなのかというのがあったら、お聞かせください。

次の保護者負担経費も大事ですけれども、これはお金の問題ですから、はつきり言つて、これから学校でこういった問題をやりますので。特に小学校低学年がいらっしゃる方なんかは、今後その中に入ってくると思うのですね。何か意見はありませんか。

ではまた、意見がありましたらお聞かせ願いたいと思います。

それでは、1番はこの辺にしたいと思います。

○内野市長 次に、(2) 海老名市立学校における保護者負担経費のあり方検討委員会について説明をお願いいたします。

○就学支援課長 就学支援課の山田と申します。それでは、海老名市立学校における保護者負担経費のあり方検討委員会が今年度設置されます。その設置についてご説明いたします。着座にて失礼いたします。

それでは、今年度、設置に至るこれまでの経過です。海老名市教育委員会では、平成29年7月に海老名市保護者負担経費検討委員会を設置いたしました。当時の構成メンバーは、保護者5名、教職員4名、事務局4名の13名で構成しております。平成30年8月まで8回の会議を重ね、検討結果を報告書にまとめ、教育委員会に提言を行いました。その提言を受けて、海老名市教育委員会として、平成30年9月、海老名市保護者負担軽減の在り方についての方針を策定し、今年度まで実施しております。方針の策定から5年以上が経過したため、今年度、令和6年度に再度保護者負担経費のあり方検討委員会を設置するものでございます。

前回の海老名市保護者負担経費検討委員会の検討結果を受けて、これまで取り組んだ保護者負担軽減策についてご説明いたします。計4点ご説明いたします。

1点目、中学校におけるジャージ服のコンペによる選定です。平成30年度から各中学校で順次ジャージ服コンペを実施し、ジャージ服上下、ハーフパンツの3点の合計価格が現

行のものより200円から3506円安価となった実績がございます。

2点目が制服のポロシャツ、運動着の指定の廃止でございます。基本学校の仕様に沿つたものであれば保護者が自由に購入可能といたしました。

3点目、修学旅行費の補助です。令和元年度から、小学校につきましては1人当たり1万円、中学校につきましては1人当たり1万5000円を補助しております。

4点目、彫刻刀・柔道着の公費での購入です。使用頻度が低い彫刻刀と柔道着につきましては、平成30年度から彫刻刀と柔道着を各学校に一定数を配備し、児童生徒に無償貸与しています。

それでは続いて、今年度設置される保護者負担経費の方検討委員会についてです。目的でございますが、海老名市立学校における保護者負担経費の在り方を検討するため、海老名市立学校における保護者負担経費の方検討委員会を設置するものでございます。期間については、令和6年4月1日から令和7年3月31日を予定しております。計5回程度の開催予定です。委員構成ですが14名、保護者代表として、海老名市PTA連絡協議会 単位PTA会長会代表、小学校保護者代表として2名、中学校保護者代表として2名、学校代表といたしましては、小学校校長会代表、中学校校長会代表、あわせて、小学校総括教諭・教諭代表として1名、中学校総括教諭・教諭代表として1名、市民代表として民生児童委員の方にご参加いただきます。教育委員会事務局も参加いたします。

最後に検討内容でございます。全部で6点挙げさせていただきました。まず1点目、前回の海老名市保護者負担経費の在り方についての方針の検証を行います。

2点目、今年度より実施いたします小中学校の教材費の無償化について、現状の報告と取組について検証いたします。

3点目、学校給食費の公費負担の在り方について検討いたします。

4点目、卒業アルバム等を中心とした卒業に係る経費についての検討を行います。

5点目、1人1台端末に係る経費について検討します。

6点目、その他として検討する予定となっております。

説明は以上です。

○内野市長 海老名市立学校における保護者負担経費の方検討委員会について説明がありました。最終的には検討委員会の結果を踏まえて教育委員会で決定し、その決定を受けて、市長として、どうするか、決定しますけれども、そういう流れになります。

今の段階で教育委員から何かございますか。

○濱田委員 検討委員会は、今年4月から1年間、合計5回程度開催予定だとなっていますけれども、いろいろな事例を併せて検討して、開催をなるべく前倒しにしていただいて、早めに方向性を示していただきたいなというのがお願いでございます。というのも、我々も考え方についていろいろ意見を述べさせていただきたいし、どのような形になっていくのか、教えていただければと思います。参考になりますので、ぜひ途中経過等をよろしくお願ひいたします。

○平井委員 今まででは学校の立場から委員会にお願いしてきた部分もあるのですが、検討委員会を立ち上げると、保護者その他の方からの意見も聴かれるということなので、非常にいいことだなと今までも含めて思っております。ここに主な内容として5点挙がっていますが、今後また、いろいろな形でまた意見が出てくると思います。私が特に評価したいなと思うのは、教材費の無償化です。私は現場にいましたので、やはり全てのこどもたちに無償化で学ばせてあげたいなという思いがありましたので、そのところを今回きちんと予算づけしていただけて、こどもたちが安心して学べるという、とてもいい方向にあるのかなと思います。

それぞれまた、学校サイド、保護者サイドからいろいろなものが出てくると思いますので、そのあたりをまとめていただいて、今後また、こどもたちの学びに必要があれば、ぜひ支援対象にしていただけたらありがたいなと思います。

○海野委員 ありがとうございました。私からの意見といいますか、感想といいますか、うちもこどもが3人おりましたので、教材費に関しては、3人分が一遍に出ると結構な金額になって窮したのですが、今はいろいろ検討していただいて、無償化していただくということで、助かっている保護者の方もたくさんいるのではないかなと思います。また、今回、検討委員会が新たに立ち上げられてやっていく上で、どういったものが必要なのか、きちんと考えていただいて、私たちでもいろいろご意見をいただいて検討させていただいて進めていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○伊藤教育長 もう1回検討委員会を開くというのは、今日、議員も結構いますけれども、私、議会で、暴言と言うほどでもないのですけれども、議員が私にこうしたらと言うのだけれども、いや、あなたたちのためにやるわけではないという思いなのですよ。保護者の方ときちんと話し合って、親御さんがそういう思いであるかどうかを確認して私は決定する。それは私が決定するのではなくて、最後は市長が決定するので、教材費も最後は市長が決定したのですけれども、そういうものなのです。でも、そのベースになるのは、

例えば政治家の方々の政策とかなんかではないのですよ。私がそれで決めるということはないのです。

だから、そういう意味でいうと、今回もアンケートをぜひ保護者にしっかり取ると思いますので、その項目を見て、どんな思いで皆さんがいらっしゃるか、我々は受けてくる。ただ、それを受けたからといって、言うとおりにならないときもあるのです。それは保護者ともきちんと話し合いを持って、こういう考え方ですというやり取りをするべきだと思います。ただ、ベースになるのは、それを払う立場の方々がどう思っているかということをしっかり聞かなければいけないということです。

市長は今度、伊藤さん、卒業アルバムを何とかしろと私には言っているのですけれども、前のときも、柔道着かなんかもそうだったのです。そうしたら、それはやっぱりおかしいだろう。みんながずっと柔道をやるわけではないから、その子たちが中学校の10時間のために柔道着を買うのはいかがなものかな。そんな安いものではないので。でも、それまで親の意見がなかったときには、学校はそれが普通のことだと思っていたのです。紙を出して、買ってもらうのが。それはいかがなものかということがだんだん分かってきたので、そういう意味で今回も保護者の意見をしっかり聴いて、保護者としっかり話し合って、その結論をまた保護者にフィードバックして、最後の予算は市長が決定するのですけれども、市長ともやり取りしながら、保護者にとってよりよいものは何かなどということです。

別に市長を持ち上げるわけではないのだけれども、市長の感覚のほうが一般的なのですよ。要するに、一般社会の普通の感覚で物を見ているのです。市民の目線で。だから、そういう中で、我々が普通だと思うことでも、ほかの人たちが見ると普通ではないことはいっぱいあって、多分保護者負担の部分もそこがあるかなと思っているところでござります。

ただ、これを言うと、また問題発言になるのですけれども、私自身は、実をいうと——これは言わないほうがいいかな。実をいうと、私は田舎の生まれで、うちの親はそれなりの仕事をきちんとして、必死になって育ててくれました。そのときに、いつもずっと見ていたのは、親たちが必死になって私が学校に通うお金を工面していたというか……。それがいいとか、悪いとかではなくて、多分こども中心の生活のパターンの中で、家計とかなんかもこども中心になっていたのですよ。その中で、必死になって、苦労しながらお金を出してやっていたということです。そういう意味でいうと、私自身は、市立学校における

保護者負担経費のあり方検討委員会委員なのだけれども、もう1回、こどもを育てるはどういうことなのか、保護者は責任としてこどもたちに何をすべきなのかなということについては、きちんと話をしたほうがいいと思っているのです。

だから、一番怖いのは、全て公費で負担すべきであって、そうだという感覚ではなくて、こどもたちを育てる責任をどうやって自分たちが果たすのかということは、セーフティーネットは別ですけれども、そういうことも保護者負担経費の中では議論すべきだなと私は思っているところでございます。ただ、保護者の声を聴いて、5年たったので、もう1回、海老名市立学校における保護者負担経費の在り方を検討してみたいと思っておりますので、皆さんにはまた、途中経過でも何かありましたらお願ひいたします。

私からは以上です。

○内野市長 皆さんから何かございますか。よろしいでしょうか。

この間の新聞を見まして、学校給食を始めたのは、戦後、食糧がない、食べられないという形で山形県で始まったそうです。論説がいろいろ書いてあって、国がやるべきだとかいろいろあって、そのときに学校給食を無償化することはいいことだ。1ついいことはスクールサポート、いわゆるこどもたちの差別がなくなる。だけれども、それは集金するか、しないかで分かってしまう。だけれども、今回、教材費を無償化することによって、学校で集めるお金はほとんどなくなったのです。よって、集金袋もないわけです。あとはPTA会費をどうにかしようかなと思ったのです。PTA会費を全部こちらで出してしまうと。ところが、1つだけあって、あれは神奈川県PTA協議会に負担金を出しているのですよ。県PTA協議会が、いわゆる県が補助金を出してくれればうちもいいのですけれども、問題は県に上納するので、その部分がクエスチョンなのですよ。あれが純粋に市PTA連絡協議会で使われているお金だったら、全部持ってしまおうかなと思ったのです。そうすると、一切合切、もうない、給食費だけ口座でやる。あとは全て口座で、要援護の人とかスクールサポートの人はこちらで払っていますから、公会計ですから、そうなっているのですね。ここはオーケーだと思っています。

よって、私は、学校から言うものについてはできるだけ無料にしていきたい。問題は、今までやってきた修学旅行の1万円や1万5000円も物価高で、今年どうなのか。相当上がっていると思うのです。こどもたちが行く場所が変わってしまうとか、旅館の料理が替わってしまったたり、いろいろあるので、今までの形でいくと、物価が上がっているので、1回調べていただいて、令和7年度。今年度、6年度で間に合うならば補正し直してもいい

と思ひますけれども、公会計だから。公会計って、そういうことなのです。

だから、今回、教材費も無償化にしましたけれども、割り振って、教育委員会の予算を認めました。だけれども、学校の特色で教材費がでっこみ、ひっこみあって、足らないときは言っていただければ補正しますと。これは無駄がないという前提です。そのほうが面白いではないですか。小学校でみんな同じ金太郎あめ、中学校で作ってもしようがないから。1つのテストにおいても学力で違うところがありますから。国語が弱い、数学が弱いとか算数が弱いといった部分で教材費のバランスを考えてほしいなと思うのです。この子どもたちは美術感覚がすごいとなったら、こういったものをどんどんやってもいいなと思いますし、特色ある学校の教材を目指してほしいなとつくづく思っています。

もう1つ、アルバムについて、教育委員の皆さんと教育委員会に誤解がないように。私がアルバムを見たときに思うことは、皆さん、アルバムを何回見ましたか。見ませんよね。卒業証書だって、丸めて筒に入ったまま。それはやめろと言ったのですよ。なぜやめろと言ったか。折り畳みにして、そこに卒業写真が入るようにしてくれと言ったのです。アルバムをやめて、CDにしてくれと言ったの。例えば卒業式も全部入ったものを、終わった後に郵送してくれ。今は、子どもたちが自分たちで選んで、自分のところでできる。どうしてもクラスで作りたい場合は、各クラスで作って、印刷は、海老名市役所にカラー印刷機があるからやらせてあげるよと言っているわけ。今の印刷機でアルバムができてしまうのですよ。そう言っているわけ。

ところが、9000円とか1万円で業者とのあれがもう当初から決まっているわけ。写っているのは3か所ぐらいしかないのですよ。全校生徒を入れたら、こんなものですよ。私の修学旅行なんかは1クラス50人ぐらい、掛けること9クラスですから、奈良、京都とあるけれども、こうやって虫眼鏡で探さなければいけない。写っているのは3か所ぐらいなのです。それで9000円なのですよ。要するに言わされたから買っているだけだから、今的孩子もたちは自分たちで作れるので、そういった時間を与えれば、3月10日に卒業式をやつたら、1回、編集委員が集まって、みんなで作って、印刷機にかけば、4月の初めには全部届くというCDにしたほうが面白いのではないかと何度も言っている。卒業証書もこうやって丸めて筒に、みんな押し入れかどこかに入っているではないですか。アルバムみたいにやっておけば最後まで残るのではないかと言っているのです。それで、卒業証書が2つ折りになり始めた。

○伊藤教育長 みんなそうではないかな。

○内野市長 アルバムだけはまだだった。ところが、それを検証したら、アルバムが1万円で、CDにすると3000円だったら、今度は保護者の皆さんからCDのほうがいいと。そういうところ、子どもはすごいから。自分たちで作れますから、それを作らせるということもいいのではないかなと思っています。そういった形で、私は子どもたち主体で考えていますから。だけれども、私なんかから見ると、卒業写真を見るのは大体同窓会の後。それを見て、前の顔を見ないと思い出せない。特に女性が分からない、みんな。私にみんな聞く。隣にいた人は誰だっけ、誰だったっけと。高校もそうですね。そういう部分で考えていただければと思います。

○伊藤教育長 でも、それは保護者の方の意見を聴いて決めますからね。

○内野市長 それでは（3）海老名市学校施設再整備計画の改定については、市役所では111の施設があります。その半分以上が学校施設となっておりまして、これをどうやってやっていくか。今後40年間、施設をこのまま維持すると2000億円かかります。それだけのお金はありません。少子高齢化を迎えますから。そういう部分で圧縮していこう。いわゆる改修したり、あるいは統廃合したり、その計画を市としてつくって、今度は個別で教育委員会がつくることになっておりまして、その部分の説明になります。では、よろしくお願いします。

○教育総務課長 教育総務課の西海と申します。よろしくお願ひいたします。それでは、海老名市学校施設再整備計画の改定について説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

市内小中学校の学校教育施設の整備方針や将来の在り方、方向性を示した海老名市学校施設再整備計画を平成30年9月に策定いたしました。この度、上位計画である市内公共施設全体の方向性を示す海老名市公共施設再編（適正化）計画が本年2月に改定されたため、個別施設計画である学校施設再整備計画についても見直しを図ってまいります。体系的には、上位にえびな未来創造プラン2020があり、その下位に海老名市公共施設再編（適正化）計画がございます。さらに、個々の公共施設の用途に応じた計画が個別施設計画でございます。

現行の計画ですが、基本的な考え方として、学校施設の再整備を行うことで、本市の「持続可能」な行政運営を可能とするとともに、今そして未来の子どもたちに「夢」を与えることができる計画としてございます。計画期間は平成31年度からの40年間、対象は市

内小中学校19校と食の創造館施設が含まれます。児童生徒数の推移などを踏まえ、おおむね10年ごとに見直しを図るとする計画になってございます。

この度の計画見直しのポイントといたしまして、計画策定後に建築されました今泉小の西棟や食の創造館別館を対象施設に追加してございます。他の公共施設個別計画と併せまして、おおむね5年ごとに見直しを図ります。海老名市的人口推計が目標人口15万人に上方修正されましたので、児童生徒の推計についても見直しを図りました。将来の学校施設の在り方、方向性を示す学校施設再整備方針についても時点修正等行いました。そのほか、施設の劣化状況を示す建物情報一覧や、それに基づく短期的な計画など現状に合わせて時点修正等を行ってございます。

次に、学級数の変化でございます。現在の計画では、児童生徒数のピーク時、昭和60年と比較すると約35年後には46%程度減少する見込みで推計されてございます。今回の見直しでは、目標人口の見直しによる修正や、小学校は35人学級完全実施による見込みなどを追加し推計、地域差はあるものの、人口増が見込まれる海老名駅周辺は40年後も現状程度の学級数が必要となってまいります。

小学校の推計では、海老名駅周辺の今泉小学校、左上のところですが、現在29学級でございますが、令和10年には45学級となる見込みで、そこから徐々に減少、15年程度で現状の学級数に戻るような推計でございます。同様に、中学校においても、今泉中学校は、現在17学級ですが、10年後は25学級になる推計でございます。また、一方、その下の海老名中学校や海西中学校などは12学級未満となる時期が到来し、小規模校に転じる推計となってございます。

次に、学校施設再整備方針でございます。現行の今泉エリアにございます児童の増加対応としての新校舎増築は、令和3年度に完了してございます。

見直し案といたしましては、引き続き、施設一体型の小中一貫校化、既存施設の長寿命化改修、そして新設、これらの方向性は生かしつつ、隣接する公共施設との連携、幼保連携、学区の見直し、また、隣接する他市町村との連携など地域の実情に応じた検討を図つてまいります。

最後に、見直しに向けた今後のスケジュールでございます。予定では、来週24日から5月31日まで他の個別計画を含め、パブリックコメントを実施し、皆様からのご意見を踏まえながら8月頃の決定となる予定でございます。今後も、学校施設を取り巻く現状や課題、児童生徒数の将来予測、施設の老朽化などを踏まえ、学校施設再整備計画の見直しを

図ってまいります。

再整備計画の見直し、改定に向けた説明は以上でございます。

○内野市長 説明が終わりました。委員の皆さんからどうぞ。

これから始まるのでいいですか。何かありますか。学校現場中心の教育委員の方……。

○平井委員 私は、3月に海老名小学校と海老名中学校の卒業式に行ってきました。こどもたちが式に参加する様子を見てきたのですが、幾つかの所作があります。こどもたちの状況も見て、小中一貫にしたらいだろうなというふうな思いを強くしてきたのですね。今まで、小中に行っても、学区でつながっているというところはあまり見たことがなかったのですが、今年度行ってみて、やはり小学校から中学校につなぐ指導を一貫してやつたら、こどもたちにとってはすばらしいものになっていくのではないかなというふうな思いになりましたので、ここにも移転とか小中一貫とありますので、今後、海老名の教育としてそういう方向を考えてもいいのかなという思いを強くして帰ってきました。

○内野市長 これは後でコメントしますか。

○伊藤教育長 します。

○海野委員 人数の推移とかを見ても、本当に急に多くなってきて、年がばれてしまうのですけれども、私もベビーブームのときだったので、学校がプレハブだったりとか、私のときは何クラスもあったのに、弟が入ったときにはクラスが半分になっていたとか、そういうことをしていたりもするので、それだけ変わってしまうのだなということは実感したことがあって。今回の計画を見ていると、学校が統廃合されてしまうとかいうところもあったりするので、ちょっと残念な気持ちになってしまふところもあると思うのですが、逆にそうすることによって、今あるもの、これからできるものとかを使って、さらにいいものができるかもしれないと思うと、もっといいふうに考えられたりとかするのではないかとも思うので、ぜひいい形にまとまるようにやっていけたらと思います。よろしくお願ひします。

○内野市長 濱田委員、一番少なくなっている有馬小学校……。

○濱田委員 孫も行っております有馬小学校が小規模校になるというのは確かにショッキングなデータなのですけれども、私どもは逆に世代的には非常にクラス数が少なかった小学校ですので、昔のままではないかなとも思うのです。

○伊藤教育長 元に戻るだけ。

○濱田委員 増えてもいないし、減ってもない、多分もう創立100年以上の学校ですか

ら、小中一貫校とか、ほかのエリアの中での統合とかというのは間違いなく出てくると思しますので、早く皆さんにオープンにして議論を進めることが非常に重要ではないかと思いますので、よろしくお願ひします。

○伊藤教育長 実をいうと今、海老名は全国的に見ると特殊なのです。私、教育長の会議にいろいろ行くのですけれども、前も話したと思いますけれども、教育長さん方の頭を悩ませているのは、児童生徒数が減って、統合せざるを得なくて、今までまちの中にあった4つの小学校を1つにしなければいけないのだけれども、どこに造るかとか、2つあった中学校は1つにしなければもたないということで、もう必要に迫られた統廃合と学校施設再整備計画を立てている。だから、そのことを考えると、市長とよく話すのですけれども、今の海老名は財政的にはいいのですよね。だから、積極的な統廃合、要するに、ここまで来たら、もう絶対にやらざるを得ないのだというのを待つのではなくて、こどもたちの教育環境をよりよくするために、積極的な統廃合をあえて進める必要があるのではないかという考え方で私はいます。

そういう意味でも、積極的な統廃合をやるには、様々地域の意見とかは出るのだろうけれども、海老名市の大きさ、広さが1学区というのは田舎ではいっぱいありますので、もっと広い学区で、海老名市より広い学区で1校。だから、そう考えると、19校あるということは、これが全部学区でも本当は、基本的にはあまり変わらないのかなと私自身は思っているので、こどもたちにとっての学習環境をよりよくするために、迫られてやるのではなくて、海老名は積極的な統廃合とか、学校施設再整備計画をやるべきではないかというのが教育委員会というか、私の考え方です。

○内野市長 学校を統廃合するというのは、基本的に大きな問題ですね。では、小学生の通学はどうするの、遠くに行くではないかという話になるのです。これはもうフォローして、いわゆる通園、通学バスを走らせるのは当然です。歩かせずに、通学バスを走らせたほうが安全なのです。今、有馬中学校がそうです。有馬地区は1校しかありません。門沢橋の外れから、あるいは今里の外れから行くと相当時間がかかります。自転車通学を認めていますけれども、それも危ないという感じはあります。部活やると、もう遅くなってしまう。これは教育長といろいろ話して、小学校はエリアが狭いからまだいいけれども、中学校は有馬は広過ぎるので、この安全性をどう考えていくかというところも令和6年度で考えていこうという話になっています。

小学校もそうなのですよ。一緒にいても、新しい近代的な校舎になって。今の校舎のま

ま押し込むことは絶対ありません。新しい校舎にして、そこに近代的な学習環境をそろえてやっていくと。今泉小学校を増築しましたけれども、黒板はありません。もうほとんどそうなっています。ＩＣＴで結ばれて、いろいろなことをやっています。それから、廊下がなくて、エントランスがあって、そこにみんなのロッカーがあります。いろいろな環境があって、オープン型なのです。そういった新しいものをつくっていくことも必要ですし、そういった部分が今後の課題であります。

そうしますと、すごくお金がかかります。その部分は当然確保しないといけないと思いますけれども、もう1つ懸念があるのはＯＢ、卒業した人がうるさ過ぎる。俺の卒業した小学校、中学がなくなってしまう。だけれども、面白いことに、隣の厚木市に厚木東高校と厚木商業高校があって、今度厚木王子高校になりました。何で東高がオーケーするのかなと思ったのですね。厚木高校があれをやったら猛反対。同窓会の戸陵会が猛反対して、県はできないでいます。何で東高のＯＢ会の常盤会がオーケーしたのかというと、東高は1回名前が変わっているのですよ。戦後名前が変わって厚木東高校ができた。だから、ＯＢもあり違和感がないのですよ。だけれども、古いところは絶対ＯＢから文句が出る。問題はここなのです。だから、廃校にすると文句が出る。

こういう話もあります。小学校のそばに歩道を造るのに、桜を切ると言ったら、あれは記念樹で植えた桜だから切るなと言って、歩道を造らなかったのに、数年後に歩道を造ってくれと來たので、私は職員にやるなと言ったのです。わがままを言うなど。だって、こちらが積極的にやろうねと言ったら、桜を切るなど。それで断念した。断念したら、今度、学年が替わって、役員が替わったら歩道を造ってくれと言う。おかしいのではないですかと。そういったところがあります。今後の問題は様々な点で状況が変わってくるので、それぞれの保護者の方、いらっしゃったら、自分の小学校、中学校は今後どうなっていくかというのを考えてもらって。でも、環境はすばらしくしないといけないと思っていますから、それは自信を持っています。通学の安全もきちんとやる。それは保証します。その部分はしっかりとやっていきたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○内野市長 それでは（4）教育大綱の取組について「幼保小の架け橋のプログラム」の導入についてよろしくお願ひします。

○佐藤指導主事 教育支援課の佐藤と申します。海老名市における「幼保小の架け橋のプ

ログラム」の進捗についてご説明いたします。着座にて失礼いたします。

「幼保小の架け橋プログラム」は、こどもに関わる大人が、立場の違いを超えて自分事として連携・協働し、全てのこどもに学びや生活の基盤を育めるようにすることを目指すものとして、令和4年度よりスタートしております。もう少し具体的にお話ししますと、園長、校長のリーダーシップと自治体の支援の下、園と小学校の教職員等がこどもの育ちを中心に据えた対話を通して、相互理解、実践を深めていくことを目指しております。

この「架け橋プログラム」が始まった背景といたしましては、幼保小の接続に向けて、こども同士や職員同士の交流はあるものの、育てたい力を共有するといった教育課程の編成を園と小学校で共に行っているのは全国で約3分の1程度にとどまるという現状があります。

小学校に入ると、一番下の学年として、1年生はゼロからのスタートになってしまい、幼児期でせっかく培ってきた力が十分に発揮されないこと等による“小1プロブレム”が全国的に大きな課題となっていました。

幼児期に培った力を学びの土台として、小学校でより成長できるように、海老名市といたしましても、「架け橋プログラム」を推進しております。

幼児期に培った力を小学校でさらに伸ばしていくために、ということで「架け橋プログラム」の対象となる“架け橋期”とは、いわゆる年長児、5歳児から小学校1年生の2年間を指しております。就学前教育の担い手である園の職員と小学校の職員が学校段階等を超えて、共に理解し、共に育てる意識や育てたいこども像を共有することで、こどもの豊かな成長につなげていきます。

海老名市では、令和4年度の準備期間を経て、令和5年度より幼保小連携による「架け橋プログラム」に取り組み始め、今年度が2年目の取組となります。

「架け橋プログラム」を支える組織、会議体といたしましては、園と小学校、保健福祉部と教育部等の連携の基盤について協議する「架け橋プログラム推進協議会」がございます。また、左下、園と小学校、中学校の教職員等が中学校区単位で集まり、こどもの姿や育ちについて具体的に協議をする「幼・保・小・中連絡協議会」がございます。この連絡協議会には、毎回延べ40前後の園にご参加いただいております。そして、右下です。小学校1年生の担任が集まり、入学後、特に4月・5月のこどもたちの成長や学びを支えるカリキュラムについて協議する「架け橋プログラム推進委員会」がございます。この推進委員会にて推進しております“スタートカリキュラム”的様子についてご紹介いたします。

“スタートカリキュラム”は、どの子も安心して自分の力を発揮できる学校を目指し、園の教職員の皆さんのご意見もいただきながら作成している、4月・5月の1年生の学習カリキュラムです。この先、学校の様子を写真で紹介いたします。撮影等はご遠慮いただきますようお願いいたします。

まずは、登校後、朝の支度の様子です。これまで多くの大人や6年生が支度のお手伝いをする様子が見られた教室でしたが、園では身支度は自分でやってきたこどもたちです。朝の準備にかける時間をこれまでよりもゆっくりと設定し、こどもたちが自分でできるように見守っています。

教員は、こどもたちが友達との関わりの中で自分のことが自分でできるよう、お互いの顔が見えるような座席にしたり、準備の仕方が目で見て分かるように環境を整えていきます。

準備ができた後は、9時頃まで思い思いの遊びができるよう、廃材や塗り絵、本やブロックなどを用意し、ゆったりと落ち着いて朝の時間を過ごします。教員たちはこの中で1人1人のこどもたちの様子をよく観察し、友達との関わりを促したり、支援したりしています。

その後、ゆったりと始まった学習の時間では、「静かにしましょう」や「お話を聞きます」といった指示ではなく、手遊び等を取り入れ、こどもたちが自然に学習活動に関心を持てるよう促しています。また、教科書も初日からどんどん活用し、こどもたちのやってみたい、知りたい、調べたいといった意欲が高まるよう学習を進めています。

特に1年生最初の大きな単元学習である「がっこうたんけん」では、学校全体で2“スタートカリキュラム”に取り組み、1年生の学びについて共通理解することで、これまでであれば、どこに行くにも並んで歩くことが当たり前だったところから、こどもたちが思い思いに校内を探検し、主体的に学べるような形になってきています。

休み時間なども、これまでなかなか外での遊びは、「上級生もいるので危ない」といった理由や、「いろいろな遊具等の遊び方のルールを教えてからでないと外に出せない」といった声がたくさん聞かれましたが、そうではなく、晴れたら、入学後すぐの段階で上級生が一緒に遊びに外に連れて行ってくれるなど、遊びを通した異学年交流がどんどん進んでおります。

このように1年生を迎える学校の形を少しずつ変えることで、こどもたちが安心して自分らしく過ごせる学校を目指し、「架け橋プログラム」を推進しております。

○内野市長 教育委員の皆さんから何かございますか。

国が進めているこども家庭庁、文部科学省がやっている幼稚園教育、厚生労働省がやっている保育園、別々と一緒にしようと思ったらできなかつたという経緯がありますけれども、海老名市は、保育園、幼稚園は保健福祉部が一緒に担当で、保育・幼稚園課ということで、一括でやっています。幼稚園は教育委員会の中にあったのですけれども、うちのほうで保育園と幼稚園と一緒にしようという形でやっていますので、その辺は教育委員会としてもやりやすいなと思いますので、教育委員の皆さんから何かございますか。

○平井委員 とてもいいプログラムだと思いますし、取組だと思います。特に保育園、幼稚園から小学校に上がると、生活自体が変わってくるので、なかなか難しいこどもたちがいるというふうに、孫が1年生に入ったのですが、早速不登校になつたり、そういう壁に当たっている子がいるということなので、本当に大事だな。私も1年生を持ったことがあるので、とても身近なこととして感じます。そして、こどもたちが学校生活をゆっくり過ごせるという点では、とてもいいシステムになっているなと思いますので、今後ぜひこのあたりをもう少し煮詰めてというか、各学校の状況をまとめていただいて、冊子にしていただけたらいいかなと思います。今、若い先生方がいっぱい入ってきていらっしゃいますので、そういう先生方の指導にも役立つと思いますので、ぜひそのあたりも考えていただけたらありがたいなと思います。

○海野委員 ご説明ありがとうございました。すごくいい取組というか、形になっていて、いいなというのが伝わってきてよかったです。実は小学校に何日か前に行ったときに、最近、朝、おはようというので校門の前に立っていたりするときに、まだ1年生で、学校の途中まで行ったのだけれども、お母さんと一緒に近くにいて、うろうろしていて、どうしたのだろうなと思ったら、学校、行かないと言っていて、ああ、もうそういう感じのこともあるのだな、なんて思いながら、私も声をかけて、「今日行つたらいいことがあるかもしれないよ、楽しいことがあるんじやない？」なんて言いながら、あとはもうお母さんたちにお任せしてしまったのですけれども、小学校の1年生になるときは、そういった壁みたいなものがあつたりしているのだなと思うところで、こういう形でどんどんこどもたちが学校に行きやすいようにしていってもらえたならなと思います。よろしくお願ひします。ありがとうございます。

○内野市長 私から聞きたいのですけれども、保育園って、ならし保育をやるでしょう。小学校はならしの授業ができないのです。ふだん着で来て、クラスの……。だから、4月

1日から人事異動があって、教育長からしてみると、終業式が終わったら、大体決まっていると言うから、前もって話をしてもらって、各保育園とか幼稚園全部に通知を出して集めて、ならし授業をやつたらどうでしょうか。そうすると、分かるではないですか。

○佐藤指導主事 こどもたちの交流というところで、これまでにも3学期、1月や2月に年長さんを小学校が招待して、1年生たちが学校を案内したり、「こんなところだよ」「小学生ってこんなことをするんだよ」という紹介をするような交流会を開いておりましたが、それを年に1回のイベントにするのではなくて、お散歩をしながら、お散歩のルートの1つとして小学校に寄っていただいたり、学校の中を見学して歩いていただいたり、日常的にこどもたちが小学校というところに親しみを持てるように幼・保・小・中連絡協議会の先生同士が協議の中で計画をして進めていただいている。

○内野市長 そうだよね。担任の先生と幼稚園、保育園の先生との意見交換が必要ですよね。お子さんはそれぞれ十人十色でいろいろいらっしゃるから、この子はこうだよという情報というか、状況というのは踏まえないと。そのほうがいいですよね。保護者の方で意見を強く言う人がいらっしゃるようだったら、それもマークするとか、いろいろある。いろいろ大変だと思いますけれども、よろしくお願ひいたします。

○伊藤教育長 教育大綱は、新たな学校の枠組みづくりということなのです。というのは、学校は、小学校1年生はこうでなければいけないというのがあって、机が1個ずつ、真っすぐ前を見て、ずっと座っていなければいけないとか。先生たちの指導は、どうやってずっと座らせるかの指導だったりするんですよ。それ自体がちょっと間違っているのではないかなどということで、逆に言うと「架け橋プログラム」を佐藤指導主事に渡して、積極的にやれと。学校はこどもを受け入れるために、自分たちの学校のスタイルを変えることを私の中では目的として、これを推進しているところでございます。だから、今まではこどもたちが学校に合わせるのがあつたのですけれども、これからはこどもたちに学校が合わせるような時代になるので、ほかのことも全て。でも、この「架け橋プログラム」が1つの切り口という意味で、こどもに学校が合わせるような学校経営とか学校づくりのためのものとして、私は全体として捉えているのですけれども、こどもたちがにこにこして……。

私の小学校の頃の思い出なのだけれども、お菓子が配られたのですよ。何日間か、ずっとお菓子を配られて、そのお菓子目当てに学校に行っていたのです。本当は嫌だったのですけれども。

○内野市長 保育園は行ったの。保育園、幼稚園。

○伊藤教育長 行っていないですよ。

○内野市長 ないでしょう。

○伊藤教育長 だって、なかつたよ。

○内野市長 なかつたでしょう。私、3日間しか行かなかつたから。

○伊藤教育長 ということです。うちは、なかつたから。

○内野市長 うちはあつたのですよ。

○伊藤教育長 いいな。

○内野市長 濱田委員のとき、なかつたですか。では、行っていないの。

○濱田委員 行っていない。

○伊藤教育長 行っていないよ。

○内野市長 南部はうちがやっている今の上河内保育園ができてから行くようになったのだよね。だから、65歳ぐらいの人がこどものときに保育園ができたのです。私のときはさがみ愛子園があつて、3日間は行つた。

○伊藤教育長 それは行っていないな。

○内野市長 3日間行って、もう行くのが嫌で、やめました。牛乳を飲むのが嫌だった。小学校も楽しいなんて絶対に思わなかつた。行かないと怒られるから行つていたのです。

○伊藤教育長 こういう子も受け入れられる小学校にしてほしいのですよ。

○内野市長 ほかに何かござりますか。それでは、よろしくお願ひします。これは重要なことなのですよ。小学校と保育園、幼稚園が連帶すると、その部分で、さつき言った誰もが一緒に学校づくりとか、不登校もなくなつてくるといった可能性もありますので、それを密にすることによって、保育園、幼稚園は行つていたけれども、小学校に行つたら不登校になつたという事例もあるので、よろしくお願ひしたいなと思います。

○内野市長 それでは最後に、（5）教育大綱の文言修正についてお願ひします。

○教育部長 協議事項（5）教育大綱の文言修正についてご説明させていただきます。教育委員会の江下です。どうかよろしくお願ひします。お手元にカラーでA3の両面になつているものを用意させていただきました。海老名市教育大綱となつてゐるもので、こちらをご覧になつていただければと思います。では、着座にて失礼いたします。

現在の教育大綱ですけれども、令和5年4月に策定しまして、令和9年3月までの4年

間を計画期間としておりまして、現在は3期目となってございます。本日は、計画策定後の令和5年度における事業の進捗状況、今年度、取り組む内容や表現の統一化など、表現の見直しを含めた文言修正をご提案させていただきました。

主な修正内容ですけれども、現在は「子」が漢字表記となっています「子ども」という文字があります。これを全て平仮名表記とさせていただくことと、事業名となっておりますえびなっ子の「子」の字を平仮名表記とさせていただくこととさせていただきました。これはこども基本法というのが令和5年4月に施行されておりまして、その中でも表記方法を「子ども」の「子」を漢字ではなくて、平仮名で表示されております。それと、こども家庭庁からも平仮名表記の推奨依頼が出ておりますので、それに合わせたものとなってございます。

また、先ほど協議事項の（1）でもご説明させていただきましたが、令和6年3月29日に、神奈川県のフルインクルーシブ教育推進市町村のモデル市としまして、県教育委員会と協定締結を行いました。「インクルーシブ教育」としている表記を「フルインクルーシブ教育」と「フル」いう言葉を入れさせていただいたこと、また、先ほど協議事項の（4）でもご説明しましたが、「幼保小の架け橋プログラム」の導入という表現をさせていただいたところにつきましては、「導入」から「実践」に移る、移行するところから、今後はそういった文言の修正をさせていただいたものが主なものとなっております。

細かい内容ではございますが、お配りしております教育大綱、朱書きで修正している部分をご覧になっていただければと思います。

説明は以上となります。

○内野市長 これは、教育部長、教育委員会で確認してあるのですか。

○教育部長 はい、確認しております。

○内野市長 では、いいですね。大体変わっていないということでしたが、皆さんから何か聞きたいことはございますか。いいですか。

○内野市長 それでは、時間は、予定どおりではなくて、30分早くなっていますけれども、いい機会ですから、皆さんから教育行政について何かありましたら、どうぞ遠慮なく。議員さんを除いて。

○傍聴者 柔道着は貸付けになっているのですけれども、高価な剣道具一式への補助とかなんかの検討は一回はされているのですか。ということは、なぜかというと、私、ちょうど

どこどもが中学校に入った2年後に会社が倒産してしまったのですよ。倒産したタイミングで、ああ、買っておいてよかったなということで頑張ったので。その後、剣道着も大切に取っているのです。逆にそれを持っている方の募集をしてくれないかとか、そういうのも陰ながら助けになるかと思うのですが、どうなのでしょうか。

○伊藤教育長 中学校の教育課程、要するに体育の授業の中で剣道をやっている学校はないのですよ。ですので、中学で教科の対象として武道の中で剣道等は選べるのですけれども、そういうところで剣道とかをやるようなことがあったら、その学校は、単発で担当が毎年変えてはいけないですけれども、そういう場合は、こどもたちに必要な道具ということでやります。だから、それは、そういうときに皆さんに聞いていただきて、使っていないものがありましたらご寄附いただきたいということは、有効なことだと思います。

ただ、現状はそれがないということでございます。

○内野市長 現状があったらきちんとやりますよ。柔道でなくて、ある中学校が剣道をやりたいという形になったら、柔道はやっているわけですから、剣道着もそれなりにそろえてやる。ところが、剣道着、防具のあれは洗濯できないので。あれをどうやるかというのを専門的な人に聞いて、消毒でやるとか、メンテナンスの方法も考えながら学校でそろえるという形は柔道着と同じようにやらざるを得ないと思います。以上です。

他にはありますか。よろしいでしょうか。はい、それでは、司会をそちらに移します。どうぞ。

○教育部次長 内野市長、進行いただきましてどうもありがとうございました。伊藤教育長、教育委員の皆様も、ありがとうございました。ここで、次回のご案内をさせていただきたいと思います。昨年度の総合教育会議は、市内の県立高校を会場といたしまして、開催しておりましたけれども、今年度は、市内の企業、こちらを会場として、検討を進めています。次回は、7月13日（土）の開催を予定しておりますけれども、開催場所ですか、そういったものが決まりましたら、また、お知らせをしたいと思いますので、その際には、多くの皆様に傍聴にお越しいただければと思います。

それでは、以上をもちまして、令和6年度第1回海老名市総合教育会議を閉会といたします。